

# 「指標14」児童虐待関連項目の追加に対する市区町村の取組状況について【第1報】

市川定子<sup>1)</sup>，加藤祐見江<sup>1)</sup>，川村和枝<sup>1)</sup>，戸矢崎悦子<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>全国保健師長会健やか親子特別委員会，<sup>2)</sup>旧同左

# 研究背景

- 乳幼児健康診査（以下「乳幼児健診」）に「指標14 子どもを虐待していると思う親の割合（以下指標14）」に係る問診項目が追加されることになったが（厚労省事務連絡）、その問診項目の文言が直接的であることから、取扱いについて市区町村や関係団体等から不安や疑問の声が上がった。

● 指標14の問診項目～「しつけのし過ぎがあった。」「感情的にたたいた。」「乳幼児だけを家に残して外出した。」「長時間食事を与えなかった。」「感情的な言葉で怒鳴った。」「子どもの口をふさいだ。」「子どもを激しく揺さぶった。」

# 目 的

自治体の指標14の問診項目の取組状況と課題について明らかにする。

# 方 法

**【研究対象】** 全国保健師長会会員が所属する市区町村

**【研究デザイン】** 量的調査

**【データ収集期間】** H27年10月10日～26日

**【データ収集項目】**

乳幼児健診における必須問診項目の追加に伴う自治体の取組み状況（児童虐待項目の実施状況、実施後の保護者の反応、実施側の課題等）

**【データ収集方法】** メールでの自記式調査

**【倫理的配慮】**

対象の自治体に調査票への回答は対象者の自由意思によるものとし、回答しないことによる不利益が生じないことや公表等について依頼文に明記し、アンケートの回答で同意を得たものとした。

調査結果は統計的に処理し、自治体名や個人名が特定されないよう配慮した。

# 結 果

## ◎回答

448市区町村(回収率25.7%)

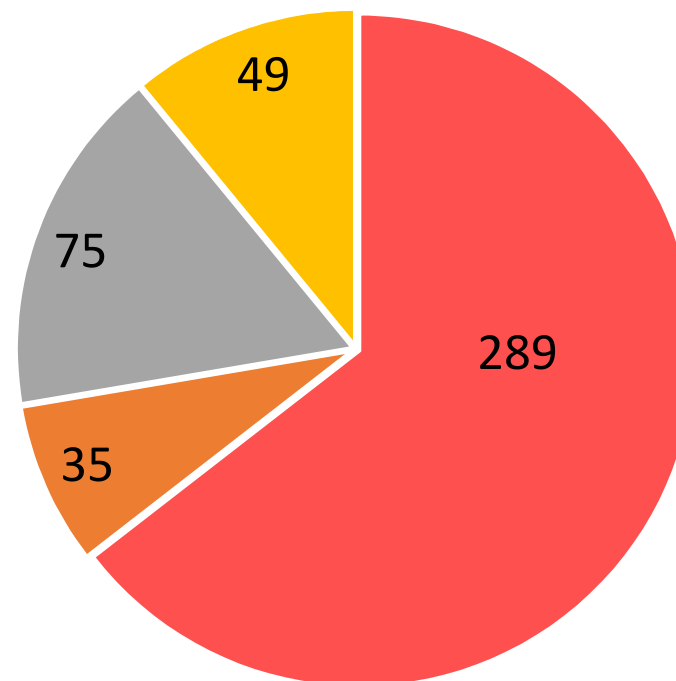
## ◎指標14を反映した問診内容の改定市町村について(図1)

⇒ 実施済 289(64.5%)

改定予定 110(24.6%)

検討中 49(10.9%)

- 実施済み(一部のみも含む)
- 平成27年度内に改定予定
- 平成28年度以降に改定予定
- 実施の有無も含めて検討中



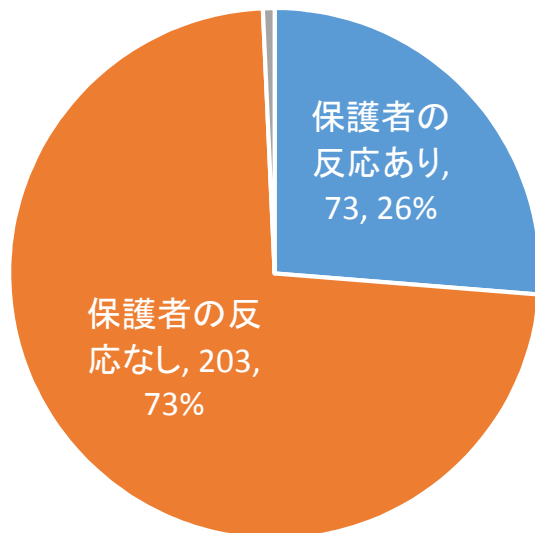
# 実施済289市町村の状況

## (1) 各乳幼児健診の実施体制について(表1)

乳幼児健診	委託先, その他の体制・方法等についての詳細							
4か月	直営	240(83.3%)	委託	42(14.6%)	その他	6	未記入	1
1歳6か月	直営	280(97.2%)	委託	6(2.1%)	その他	2	未記入	1
3歳	直営	283(97.9%)	委託	5(1.7%)	その他	1	未記入	0

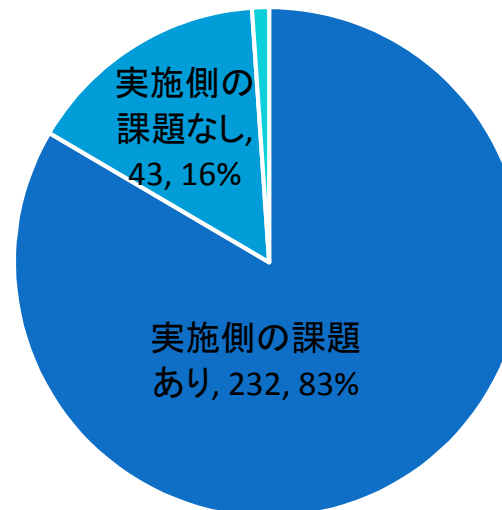
## (2) 問診に指標14 「子どもを虐待していると思う親の割合」を導入後の 保護者の反応の有無(図2)及び実施側の課題の有無(図3)

未記入, 2, 1%



・〇が多く、まじめな人が〇をつけている  
 ・虐待者(恐れを含む)は〇をつけない  
 ・虐待行為の程度がわからない  
 ・不快、答えたくない等の回答への拒否的な反応「虐待を把握するためですか」の質問等

未記入, 3, 1%



・回答へのフォローが、対応した者の判断に委ねられる不安(68.5%)  
 ・支援体制の変更がないまま、聞き取りを広げることの不安(62.5%)  
 ・質問の表現に不安がある。対象者との信頼関係を損なう危惧(58.6%)

# 指標14の項目を追加した市町村の状況

## 心理的な負担

保護者の負担感、スタッフの労力や判断の迷い等

## 物理的な問題

実施方法、システム改修や報告の変更等

## 問診項目や支援体制等の課題

問診の表現や精度の問題、把握後の支援体制の整備、関係者との調整等

### ◎追加したことによるメリット

悩み・不安を把握するきっかけとなった  
従来の健診体制を見直す機会となった

### ◎追加した項目を取りやめることのデメリット

システム再改修や関係者への説明等

# 課題

- 保護者との身体関係の維持
- 判断基準の明確化
- 保護者に対する支援体制の充実

# 考察

- 今回の研究では、「**保護者との信頼関係の維持**」「**判断基準の明確化**」「**保護者に対する支援体制の充実**」等の課題があげられた。今回の指標14の問診項目の追加は、**心理的負担**だけでなく、**物理的負担**、**追加項目の信憑性**や**支援体制**の課題等様々な課題に及ぶものとなった。
- 虐待予防のための正確なデータ収集は重要である。全国統一の指標となる指標14の問診項目は、課題も多いが**メリットの声**もあった。今後は既に導入済みの市区町村に対しヒアリングを実施し、虐待指標としての**問診項目の妥当性**や**有効的に活用する**ための課題について明らかにしていきたい。